

### 3. 国際戦略の背景

東北大学が国際戦略を必要とする背景となる要因は、以下の通りである。

- 世界が大きな変革期を迎えており、大学が果たすべき国際的な役割が増大している。 経済のグローバリゼーションは留まるところを知らず進展し続けている。これと並行して、大学が立脚する国やローカル・コミュニティの存立基盤が知識の創出や知的人材の移動に大きな影響を受けるようになってきている。以上の状況下、大学は、その国際活動においてグローバル、リージョナル、ナショナル及びローカルそれぞれのコミュニティに対してどのように行動していくのか、その方向性を決める国際戦略を持つことが不可欠になってきている。また、第4次産業革命、デジタル革新等、イノベーションを軸とする産業構造の変化が世界規模で進行中であり、大学がこのような変化を先導すべく、知識の創造とイノベーションにおいて果たしうる国際的役割はきわめて大きい。さらに、「知識集約型社会」が発達しつつあるなかで、グローバルな次元で知識の共有・集約を進め、価値を創造し社会問題を解決するという新しい社会の中で活躍し、リードできるような人材を育成することが、大学に対して国際的責務として求められるようになってきている。
- 国内外の社会課題の解決に対して大学が果たすべき役割への期待が高まっている。 国連が掲げる持続可能な世界の実現のための国際開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) への取組や、仙台防災枠組みを中心とした地球規模の国際協働による災害対応や減災・復興への取組、さらには、パリ協定などの国境を越えた環境問題解決への貢献、そして、日本が世界に先駆けた超成熟社会として直面している高齢化・人口減少等への対応など、社会課題の多くが国境を越えて広がっており、同時に日本が世界に先駆けてこれらの社会課題に直面している現実がある。このようななかで、大学がこれらの国内外の社会課題の解決に対して果たすべき役割への期待が高まっている。
- 最先端の創造を担うグローバルな研究大学をめざす東北大学のアイデンティティの実現のためには、国際的な視野に立った戦略が必要不可欠である。 東北大学は、一世紀以上の歴史に立脚し、グローバルで最先端の知の創造を担う、日本を代表する総合研究大学として未来への挑戦を続けている。また、「社会とともにある大学」として、幅広い人材を受け入れ、実学に根ざした人材育成と知の創造で世界に貢献しようとしている。さらに、課題先進国・地域として高い潜在力を持つ日本・東北地方のグローバル社会への接続と発展を先導する役割を担っている。以上のような東北大学のアイデンティティの実現のためには、国際的な視野に立った戦略を明示し、それに基づくアクションを実行していく必要がある。